

市長記者会見【米軍再編への対応方針（対話に向けて）】

日時：平成19年1月11日 14:00～14:50

場所：岩国市議会第一・第二委員会室

内容：

（市長）前提として、今回の再編について、昨年来色々な議論が出て、住民投票も出て市民の意思も示されてきました。これまで基地に協力をしてきているわけですが、今回の移駐案は大変大きなものであるし、将来の住民生活の安心、安全という観点から住民に不安、不信の念が出た結果、意思が住民投票に示されたのだと思う。そういった安心、安全の観点からの市民の不安、不信はあまり変わってないと思う。しかし最近、色々な意味で、財政が大変だからとか、国が決めたことだからとか受け入れもやむを得ないとか意見も出てきているし、不信の念もでてきているのではないかと思います。そういう中で気になるのはあやまった情報がでまわったり、基づいた議論が行われたりとか、色々な補助金がカットされたり、色々な圧力がかかったきたり、そういうことで市民の意思が左右されたりしてもいけない。今回の再編は岩国の将来を左右する大きな課題であるから、しっかりと議論していく必要がある。正確な情報に基づいて、十分に議会、市民、国とも協議、議論して、県とも協議しながらあやまりのない悔いのない判断をしていかななくてはならないと率直に思う。庁舎の建設に関する補助金の問題も大きな問題としてあるし、愛宕山問題についても今後どうするかということは議論で出ている。その中で中止して米軍住宅に転用したほうがいいのかという議論も出てきている。この問題は新しい問題であるし、まだまだ議論のつくされていない問題である。NLPの恒久的な施設をどこに作るのかということについても明確にはなっていない。艦載機部隊本体の移転だけでなく、愛宕山、NLPの実施などについても移転に付随する大切な、将来にとって影響のある大きな問題であるので、全容を明らかにして国、県、議会、市民とも十分に議論をしていかなければいけないし、方向性を見つけていかなければいけないと考えている。あらゆるところと誠意を持って、十分に協議をしていく、対話をしていくということを今後の基本的方針にして方向性を考えていきたい。国については、従来から対話はしているが、必ずしも明確に見えてないところがあるので、撤回前提でも容認前提でもなく双方の立場を尊重して、誠意を持って、色々な条件についても明らかにした上で、議論、協議をしていきたい。愛宕山とかFCLPの問題についても早く条件を明らかにして議論していきたい。信頼関係、あるいは協議の前提として庁舎の補助金については、今の状態では到底納得できるものではないので、信頼関係を回復するためにも再考を求めていく。県とも協議はしているが、もっとさらにつっこんでいった様々な情報も含めながら、愛宕山、民空は岩国だけの問題ではありませんので、県とも十分に協議をしていきたい。市議会ともこの一年間必ずしも原因はどこにあったか申し上げませんが、市議会と行政との議論も十分になされたとは言えないのではないかな。すでに

会派との協議も進行しているが、残りの会派とも引き続いて協議をしていくなど色々な形で適宜意見交換をして、意思疎通をはかりながらできるだけ連携をしていかないといけない。市民に対しても従来から何度も説明をしてきましたが、新しい問題も出てきているので、特に愛宕山問題については、愛宕山周辺にも多数のかたがたが住んでいらっしゃるし、いままでの愛宕山開発事業の目的から大きく変えようという案も出てきているので、住民にとっては全く新しい話にもなりかねないので、よく地域の人達にも話していかないといけないのではないかと。住民説明会も色々な地域で開催をしていきながら、市民の声もしっかり踏まえて議会とも協議をして、あやまりのない対応をしていかないといけない。要は大変大切な課題なので、関係機関、市民と各方面対話を十分にやっていきたい。そして方向性を探っていきたいということです。

（記者）3月までに方向性を出す？

（市長）そんなこと一言も言っていない。さっきも言っていない。方向性は今も出しているが、今度の新しい議論を踏まえて、どういう方向性が出てくるのか出てこないのかも含めて議論をしていきたい。

（記者）対話に向けてとあるが、これまでで何が違うのか端的に。改めて対話をキーワードにされた気持ちは？

（市長）気持ちというのはあやまった色々な情報も流れているし、愛宕山、庁舎など新しい事情がでてきている。そういうものの全体で市民の中に色々な意見、議論が出てきているし、不安、不信など出てきている。このままではそういう気持ちが高まっていくばかりで、国がこのまま一方的に推し進めて行っても市民の反発も強まるばかりで双方にとっていいことではない。だから正確な情報をしっかり出して、心改めて各方面と議論していくことが岩国にとっても国、市民にとってもいい方向ではないかということでこの時期にこういう方向性を打ち出した。趣旨はそう。国等に対しては継続的に協議はしているが、従来から協議の場を作りたいと言ってきたが、実現もしていないし、出来ればもう少し、市民の立場から見ても明らかに見えるように機会をつくって議論したいということがある。議会は一年間行政と議論ができていない。全員協議会も出席できなかった場合もあった。議会とは色々なレベルで十分議論していきたいと思う。住民に対しては住民説明会をしたい。

（記者）住民説明会は全体像があまり明らかになっていない状態でもこれまでの説明会とあまり変わらないのではないかと？

（市長）だいぶ違うのではないかと。今は庁舎、一番大きな愛宕山が出てきている。艦載機部隊が移転してくることと、場合によっては、愛宕山が米軍住宅になるかもしれないという今までにない去年は考えられない違いが出てきている。補助金、財政問題についても不安な気持ちが出てきている。そういう状況を含め正確な情報を提供し、ご説明し、議論するということは非常に意味がある。

（記者）愛宕山は中止かどうかの3者の方針がまだ出ていない中で米軍住宅の話は説明

会になじむものなのか？

(市長) 今後の経過を見てくれればわかると思うが、ある程度明確なものが出てくると思う。国の考え方とか。

(記者) 3者の決定はしていないが。

(市長) 決定していないので説明しないといけない。決定してからでは遅い。

(記者) 住宅を中止するか、継続するかが先ではないのか。

(市長) 先ではない。そういう議論も県とは継続的にやっていくし、決めてからではなくて、住民の声も聞いていかないといけない。地域住民の声も参考にして我々も方針を決めていかないといけないと思う。だからどうしてもやらないといけない。

(記者) 住民の中から受け入れもやむをえないという声を受けて改めて民意を把握したいということとは違うのか？

(市長) 少しニュアンスが違う。私が言ったとおりです。

(記者) 財政問題とのからみで愛宕山のマイナス面も示すのか？

(市長) もちろん。愛宕山問題は大変な問題があり、市の財政負担になってくるわけだからそういうことも含めて。全員協議会には国から来て説明される予定ですよ。ほかの場面に国が来て説明される予定があるとも聞いている。住民説明会にも来られるかもしれない。国の従来の説明だけでなく、新しい法律、交付金含めた振興策等という新しい国の考え方もあるでしょうから、そういうことも含め正確な情報を議論をしていくべきだ。このままでは不安の声が大きくなって、岩国にとってもよくないのではないか。

(記者) 愛宕山の方針は住民説明会での声を参考に市の方針を決定するのか？これまでは議会と相談して三者で話し合うとしていたが、住民説明会の反応も加わるのか？

(市長) 地元の意見もきいていかないといけないと思う。

(記者) これまで市長は住民投票や市長選挙の民意をバックに推し進めていたが、民意は普遍ではないとおっしゃっていたが、これは市長が変わってきている過渡期にあるという人もいると思うが？

(市長) あまりうがった見方はしないでください。今申し上げたとおりです。米軍再編は財政問題で考えるのではない。国が決めたからといって考えるのではない。住民生活の平穏な生活が守れるかどうか、安全、安心を守ることができるかどうかが一番のキーポイントで、そういう点に関しては状況は変わっていない。そういう民意は変わっていない。でも新しい条件も出てきているし、市民の中で色々な声も出てきているのは事実ですのでそれもちょうんと受け止めて、色々な方面ととことん議論すべき。

(記者) 撤回前提でもなくということは撤回方針を撤回するということか？

(市長) そういうことではない。お互いに意見が違うわけだから撤回前提で協議の場をもうけようとしても難しい。逆に容認前提でと言われても難しい。お互いの立場は尊重しながら新しい条件も含めてもっと目に見える形で真摯に綿密に協議をしていくべきという意味。

（記者）協議の場を再度求めるということか？

（市長）早急に検討した上で、改めて国に対しては協議の場をもうけましょうということとを申し上げたい。

（記者）協議の場では撤回と言わないということか？

（市長）協議の場ではお互いの意見をぶつけあうので、容認できないということはもちろんぶつけ合う。

（記者）基本的には容認は認めないできている？

（市長）もちろん。もっと別の選択肢を考えていただけないかとか。あらゆる可能性を含め、我々も国の安全保障の考え方とか立場や米軍再編の意味とかいうこともまだまだ十分ではないかもしれないので、向こうから色々なことを聞かされるだろうし、我々としては住民の不安、不信とか、安全性が確保されないという市民の強い声があるとか、別の考え方がないかとかあらゆる話し合いをする。

（記者）それではいままでと何ら変わらないと思うし、国としても協議を受けることにはならないのではないのか？

（市長）国がどう判断されるかはやってみないとわからない。

（記者）撤回前提を削除したのか？

（市長）うがった見方をするのではなく、ここに書いているとおり。

（記者）話し合いを通じ、容認をする可能性があるのか？

（市長）これから議会とも市民ともあらゆる条件を含めて、とことん議論していくわけですから。私がではなくて岩国市の判断として、市民、議会がこれからどう判断していくかはわからない。

（記者）協議したい具体的には？

（市長）色々な選択肢があるとか、国からは安全保障をどう考えるとか、空母艦載機の位置は米軍再編の中でどういう位置にあるのかとかあらゆること。

（記者）それはすでにやったことでは？

（市長）今までの説明では岩国の市民、我々がわかりましたという状況になってないわけなので、だから十分とは言えないのではないですか。

（記者）さきほどの会派との意見交換では民意を改めて判断するために住民説明会を開くと言っていたが、民意を判断するために開くのではないのか？

（市長）市民の声を聞く住民説明会。

（記者）容認が多ければ容認が多いということで判断するのか？

（市長）それだけで決めるわけではない。ひとつの参考材料。

（記者）いつから？

（市長）決めてない。3月議会までにはやったほうがいいから一月の終わりに2月のはじめぐらいになるのではないか。

（記者）何箇所？

（市長）決めてない。基地、愛宕山周辺地域を中心。

（記者）愛宕山地域の住民の声を参考にして決めるのでは3月議会まででは県も方針出しているし、方針が固まってからの説明になるのではないかな？

（市長）愛宕山について、住民説明会をして市の方針を出しますと言ったつもりはないんです。平行して協議はやっていくし、そういう中で住民にとっては新しい問題であるので、住民説明会も当然やっていかないといけないと申し上げた。どういう手順を踏んでどうやって決めていくことまでまだ明確に決めているわけではない。県、公社との協議がどういう展開をするかということも少し考え方が違うのではっきりわからない。1月末2月に方向性が出てこないとも限らない。そうなれば、住民説明はそのあとになるかもしれないが、そこまで明確なものが出てこないかもしれない。まだわからない。

（記者）愛宕山は県知事は2月と言っているが、それについてはどう思うか？

（市長）岩国の議会も十分に議論がされてない。大変な状況にあるというのは議論されているが、中止して国へ米軍住宅へ転用という議論はされていない。愛宕山特別委員会も開催されるが、そこでの議論もはじめてでどうなるかわからない。そういう状況を見ながら市民の説明もいるでしょうし、方針をだすために色々なことをする必要もあるかもしれないし、そういうことを含めて検討、協議していくので県の考え方は表明されますが、それがどういう風に展開するかわからない。

（記者）では県のリミットは岩国市のリミットとしてはとらえていない？

（市長）だからそういうことも言えない。県はそういうことを示されているので県の考えとして尊重しないとイケない。そういう中で議論をしていくわけで議論の結果によってどうなるかはわからない。

（記者）住民説明会は国、県、議員には出してもらう形になるのか？

（市長）色々な方に出ていただいたらいいのかなと思うが、まだ話していないので明確なことは言えない。住民の方々にもできるだけ色々な方に参加してほしいし、関係機関も参加していただくといいかなとは思う。

（記者）住民説明会は空母艦載機の対応方針について話すのか？

（市長）基本の議論は、艦載機部隊の移駐、それに伴う愛宕山問題を中心として話し合いをする。関連の中で、庁舎、財政、民空とか色々な問題の議論をすることにはなると思う。

（記者）容認前提の声が多くなった場合、どう市の対応に影響するのか？

（市長）私が独裁政治をしているわけではないので、市民の声、議会の議論などをもとに岩国市としての方針がある。議会と一年間十分な議論ができていないからと言って、この重要な問題について市としての方針を出さないわけにはいけないので今方針を出してきている。方針はあるわけだが、色々な状況変化とか新しい状況も出ているからさらに議論を深めて今後それをどうするかという岩国市としての方針を探っていくということ。もっと強く反対ということもあるし、考え方を変えていかないということもある。

りうるかもしれないが、なんとも言えない。

（記者）住民投票や市長選から一年たっていないが、それでも住民説明会をやる必要はあるのか？

（市長）今の市民の声、議会の声を聞いていると、やる必要があると思う。このままやらないでいくとますます岩国の世論が混乱するのではないか。国はどんどんやってこられるかもしれないますます反発、不信感が強まるなど決していいことではない。

（記者）新しい対応方針をいつごろまでにだせばいいと考えているか？

（市長）期限は持っていない。協議をするのは新しい方針をだすためではない。新しい方針が出るかもしれないし、今の方針がさらに強化されるかもわからない。別の方針をだすために舵を切るわけではない。情勢が動く中でいつまでかはわからない。

（記者）市内には住民説明会をしなければいけないほど容認の声や不安が広まっているという印象をもっているということか？

（市長）やむをえないと言う声もかなり出ているし、今後どうなるのかという不安の気もや国のやり方への反発も出ているし、財政問題を絡めて心配をしている人もいる。

（記者）住民説明会をやるというのは愛宕山問題は国から打診があったのか？

（市長）そうではなくて、なかば公然と取りざたされている。常識的に考えても全部中止するというのではないと思う。中止してどうするかということがないと、簡単に中止はできない。借金だけが残る。何かに効果的に転用するということもあわせて考えていかないと中止という議論はできない。その辺（米軍との絡み）が明確にならなければ住民説明会でつっこんだ議論はできないかもしれない。出てこなければ出てこなければで、純粋に財政的に事業収支的に議論する場になるかもしれない。

（記者）政府内では愛宕山の転用を考えているという話もあるが、今後計画の全容を出してくれるよう求めていくのか？

（市長）そういう問題も求めていきたい。

（記者）愛宕山を米軍住宅になることは岩国の将来にいいことか？

（市長）米軍再編が容認できないという状況の中で米軍住宅ということは考えられない。まちづくりという観点からも考えたことはないし、まちづくりという観点からも問題があるだろう。一方では事業収支が厳しいということもあり、そういう面を含めて、方向性をこれから協議していきたいということ。

（記者）撤回前提でもなく、容認前提でもなくというのは今までの容認できないということと違うのか？

（市長）基本的には同じだと思っているが、色々な方面には誤解があるかもしれないので、改めて私の率直な気持ちを申し上げたということかもしれない。従来からお互いの立場で議論しましょうという気持ちは持っていたのだが、今までそういう明確な形で話し合いの場をもっていただくことは賛同していただけていないわけですから、議会、市民の間にも私の考え方に誤解があったのかも知れないということもありましたので、明確

に。別の誤解を受けそうだが、あえてそれも恐れず正直なところを明確に出した。

（記者）このまま話し合いを続ければいい方向が出るとお考えか？

（市長）何事もそうでしょう。意見が違ってもお互いに紳士に話あいを続けていく中で解決を見つけていくのが今の民主主義。意見を聞かないのでは進歩がない。

（記者）いつ提案するのか？

（市長）わからない。近々。

（記者）大竹市長が会って話たいことがあるとのことだが。

（市長）聞いていない。大竹の市長と会って話すことはあまりないが、来られたいというのであれば拒否するものではない。

（記者）住民説明会について、住民の声が変わってきているので聞くのか、それとも受け入れられない説明をもう一度するのか？

（市長）どっちということではないが、現状や市の考え方などを説明し、議論していただく。

（記者）市議会会派との説明は残りはどこか？

（市長）共産党、西村さん、市民クラブ。断続的にはしている。

（記者）今日の会派との話し合いでの市長の受け止めは？

（市長）今日の会派と今までの会派の中でわかれている感じがする。今日の会派の中でも幅があり、わかれていたのではないか。容認の人から話をしろという人もいた。

（記者）岩国の世論が混乱しているのはどこが原因か？

（市長）混乱ということを経験されても困るが、いろんな意見が出てきているのは事実。時間が経っていることと、新しい事情、閣議決定、庁舎、愛宕山、夕張破綻、色々なあやまった情報の中で出てきたのではないかな。なかなか十分な情報は市民一人ひとりにはなかなか届かない。だからこそ十分に対話をしないとイケない。

（記者）住民投票は？

（市長）条例がない。住民投票の条例を作ることは今は考えていない。自治憲章を作る動きがあるのでその中でひとつのテーマとして出るかもしれない。

（記者）対話の目的は？

（市長）さきほどから申し上げているとおり。あらゆる方々の考え方をしっかり出して前提を置かないでとことん議論すべき。十分議論して判断すべき。

以上